取扱説明書

FOMA® M1000 ’05.11

必ずお読みください！ FOMA® M1000

ーWebブラウザやメールなどのインターネット接続機能をご利用の皆様へー

この度は、FOMA M1000をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
本FOMA端末は、FOMAはもとよりGSM/GPRSにも対応しており、世界各国で広くご利用いただけます。
また、インターネット接続などのデータ通信では、無線LAN（IEEE802.11b、WiFi認証）機能を搭載しており、パソコンやPDAと同様にご家庭内の無線LANアクセスポイントとの接続、インターネットサービスプロバイダ（ISP）などが提供する公衆無線LANスポット（Mzone等）への接続、企業内無線LANネットワークへの接続などが可能です。
これにより、インターネットやイントラネット上の各種サービスを高速通信でご利用いただける画期的な携帯電話です。
FOMA M1000は様々なビジネスシーンやプライベートシーンにおける強力なパートナーとなり、必ずやお客様のFOMAライフを満足していただけるものと思います。

なお、本FOMA端末をご利用の際には、以下についてご注意ください。

- 本FOMA端末は、iモード機能（iモードメール、公式サイトへの接続、iアプリなど）には対応しておりません。
- 本FOMA端末では、定額制料金サービス「パケ・ホーダイ」はご利用いただけません。
- 本FOMA端末でFOMAパケット通信やGPRS通信を使用した大量のデータ通信を行った場合、通信料金が高額になることがあります。
- Eメールの送受信やインターネットサイトの閲覧では、画面に表示される文字や画像など以外に通信に必要なデータが含まれており、その部分も課金の対象となります。
- セキュリティスキャンLightのパターンデータを最新の状態にしてスキャンを行ってください。また、アプリケーションのインストールやメモリ上へのデータの書き込みの前後には、必ずスキャンを行うようにしてください。

同梱されている取扱説明書をご一読いただき、十分にご理解いただいた上で本FOMA端末をご利用ください。

NTT DoCoMo

裏面もお読みください
▼

2005年8月

FOMA M1000を上手にご利用いただくために！

FOMA M1000はモバイル環境でインターネットを便利にご利用いただくための様々な機能が搭載されています。以下をご一読いただき、FOMA M1000を上手にご利用いただけますよう宜しくお願い申し上げます。

Webブラウザ

本FOMA端末には一般パソコン向けのホームページを閲覧できる高機能なブラウザが搭載されております。本ブラウザでは、多彩な表示が可能であり、以下に示す表示切替機能が搭載されておりますのでお好みに応じてご使用ください。

通常表示／フィット表示／縦全画面表示／横全画面表示／ズーム（オートズーム）

※一般パソコン向けのホームページでは一部表示できない場合があります。
※CGI（サーバ上でのプログラム実行）を利用した掲示板などはご利用いただけない場合があります。
※「フィット表示」モードを使用した場合、画像などが表示されなかったり、レイアウトの変更が行われたりすることがあります。

インターネットメール送受信機能

本FOMA端末にはISPが提供するインターネットメール（POP3、IMAP4/SMTP）サービスに対応したメール送受信機能が搭載されております。本メール送受信機能では、ご利用の形態に合わせた多彩な受信動作が可能です。

- NTT DoCoMoが提供するmopera Uのメールサービスをご利用いただく場合、iモードメールサービスのような「自動受信機能（リアルタイムメール着信機能）」がご利用いただけます。
- 制限無し（全文受信）／ヘッダのみ／最大サイズ制限／行制限受信を上手にご利用いただくことにより必要な情報だけを受信することができ、通信料金の削減に繋がります。
- 上記各種制限受信後に、必要なメールだけを全文取得する選択全文受信取得機能があります。
- 「サーバから削除」をOFF（初期値）にすることにより、複数の端末からメールの閲覧が行えます。
- メールBOX作成機能とメールフィルタ機能を組み合わせることで、受信したメールの格納先を自動的に振り分けることが可能です。

※パソコンや他の携帯電話などとメールのやりとりをした場合、正常に表示されない場合があります。
※上記の各制限受信設定においてメールを受信した後に『制限なし』に設定変更してメールの送受信を行った場合、サーバ上に残っているメールの全文が再受信（再取得）されます。
※受信したEメールに絵文字が含まれていた場合、その絵文字は正しく表示されません。
※他の端末からメールサーバ上のメールが削除された場合、本FOMA端末でメールの受信はできません。他の端末の“メールサーバからのメッセージ削除”の設定をご確認ください。
※**メールサーバからメッセージを受信し、その後に他の端末でメールサーバ上のメッセージを削除し、それ以後に本FOMA端末で送受信動作を行った場合、サーバ上から削除されたメッセージが本FOMA端末内から自動削除されます。メッセージの自動削除をしたくない場合は、事前にご自身で作成されたメールBOX（ローカルフォルダ）へメッセージの格納（移動）を行ってください。**

アプリケーションインストール、セキュリティスキャンLight

本FOMA端末には各種ソフトウェアをインストールすることで様々なアプリケーションを動作させることができるアプリケーション追加機能と、悪意のあるソフトウェア（コンピュータウイルスなど）の検出および削除を行う「セキュリティスキャンLight」が搭載されています。

※アプリケーションなどのインストールは安全性をご確認の上、お客様の判断と責任において実施してください。
※アプリケーションなどが書き込まれた外部メモリカード（Trans Flash）を本機に挿入した場合、本機にアプリケーションなどが自動インストールされる場合がありますので、外部メモリカードへのデータ書き込みを行う際にも十分に安全性をご確認の上、実施してください。
※上記インストールによりウイルス感染や各種データの破壊などが発生する可能性があります。
※セキュリティスキャンLightによるスキャンの実施は取扱説明書に記載された正しい手順で行ってください。

●上記各機能の詳細は、取扱説明書の各機能のページをご覧ください。

6803609B23

ドコモ　W-CDMA、GSM/GPRS方式

このたびは、「FOMA M1000」をご利用いただきまして、まことにありがとうございます。

ご利用の前に、あるいはご利用中に、この取扱説明書をよくお読みいただき、正しくお使いください。取扱説明書に不明な点がございましたら、裏面の「総合お問い合わせ先」までお問い合わせください。
FOMA M1000は、あなたの有能なパートナーです。大切にお取り扱いの上、末長くご愛用ください。

FOMA 端末のご使用にあたって

- FOMA端末は無線を利用しているため、トンネル・地下・建物の中など電波の届かない所、屋外でも電波の弱い所およびサービスエリア外ではご使用になれません。また、高層ビル・マンションなどの高層階で見晴らしの良い場所であってもご使用になれない場合があります。なお、電波が強くアンテナマークが3本表示されている状態で、移動せずに使用している場合でも通話が切れる場合がありますので、ご了承ください。
- 公共の場所、人の多い場所や静かな場所などでは、まわりの方の迷惑にならないようにご使用ください。
- FOMA 端末は電波を利用している関係上、第三者により通話を傍受されるケースもないとはいえません。しかし、W-CDMA、GSM/GPRS方式では秘話機能をすべての通話について自動的にサポートしますので、第三者が受信機で傍受したとしても、ただの雑音としか聞きとれません。
- FOMA 端末は音声をデジタル信号に変換して無線による通信を行っていることから、電波状態の悪い所へ移動するなど送信されてきたデジタル信号を正確に復元することができない場合には、実際の音声と異なって聞こえる場合があります。
- お客様ご自身でFOMA端末に登録された情報内容は、別にメモを取るなどして保管してくださるようお願いします。万一、登録された情報内容が消失してしまうことがあっても、当社としては責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- お客様はSSLをご自身の判断と責任においてご利用することを承諾するものとします。お客様によるSSLのご利用にあたり、ドコモおよび別掲の認証会社はお客様に対しSSLの安全性などに関し何ら保証を行うものではなく、万一何らかの損害が発生したとしても一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
  認証会社：日本ベリサイン株式会社、ビートラステッド・ジャパン株式会社、日本ジオトラスト株式会社

取扱説明書(本書)のご使用にあたって

次の方法で知りたい内容を探すことができます。

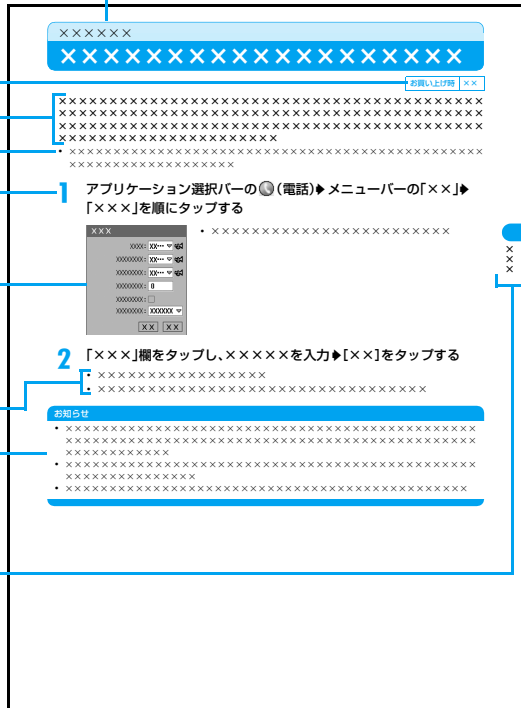
- 目次から引く
  操作したいアプリケーションを選んで引きます。→P2
- 索引から引く
  機能名やアプリケーション名を選んで引きます。→P624
- P1とインデックスから引く
  アプリケーション名やタイトルを選んで引きます。
- 章扉から引く
  タイトルを選んで引きます。
- 特徴から引く
  FOMA端末の特徴や使いかたから選んで引きます。→P4、P6

- この『FOMA M1000取扱説明書』の本文中においては、「FOMA M1000」を「FOMA端末」と表記させていただいております。あらかじめご了承ください。
- 本書の内容の一部、または全部を無断転載することは禁止されています。
- 本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。

※「安全上のご注意」は、P8に記載しています。ご使用の前に必ずお読みください。

クイックマニュアル記載→P630

本書の見かた

本書では、FOMA端末の使いかたを次の構成で説明を行っております。

※ 上記のページはサンプルです。

操作説明の記載について

本書では、スタイラスペンを使った方法で操作を説明しています。あらかじめスタイラスペンの使いかたやメニュー項目の選択方法などをご確認の上、FOMA端末をご利用ください。→P34、P35、P43

- FOMA端末のキーを使うとより簡単にできる操作や、覚えておくと便利な操作の場合は、キーを使った方法で操作を説明しています。キーの操作は各キーのイラストを用いて説明していますので、あらかじめ各キーのイラストや説明をご確認ください。→P30、P31

■海外での利用について
FOMA端末を海外で利用する際は、「海外利用」の章を参照してください。→P560

お知らせ

- 本書に掲載している画面などのイラストはイメージであり、実際とは異なる場合があります。

目 次
Contents

FOMA M1000の特徴

FOMA（Freedom Of Mobile multimedia Access）とは、第3世代移動通信システム（IMT-2000）の世界標準規格の1つとして認定されたW-CDMA方式をベースとしたドコモのサービス名称です。

■国際ローミング

デュアル方式（W-CDMA、GSM/GPRS）に対応し、ドコモが提供するFOMAネットワーク内での使用のほか、W-CDMAネットワークやGSM/GPRSネットワークを利用している海外でもFOMA端末を使用して通話や通信ができます。→P560

※ 海外でご利用になる場合は、ドコモの国際ローミングサービス「WORLD WING」をご利用ください。WORLD WINGはお申し込み手続きなしでご利用いただけます。ただし、2005年8月31日以前にFOMAサービスをご契約で、WORLD WINGをご契約いただいていないお客様は、別途お申し込み手続きが必要となります。

■タッチスクリーン

スタイラスペンでディスプレイ（タッチスクリーン）に触れるだけで、FOMA端末を簡単にすばやく操作できます。また、紙に鉛筆で描くように、フリーハンドの文字や絵を描くこともできます。→P35

■ブラウザ

Webブラウザを搭載し、表示サイズの大きいホームページもレイアウトの変更なく本FOMA端末のディスプレイに表示できます。→P198

■メール機能

日本国内にいる相手だけではなく、海外にいる相手ともEメールやショートメッセージ（SMS）の送受信ができます。Eメールには、音声や動画、静止画、ドキュメント（WordやExcelファイルなど）などのファイルを添付して送信できます。相手の機器がBluetooth対応のメール機能を搭載していれば、Bluetooth経由でメールを交換することもできます。→P242

■無線LAN機能

オフィスなどの無線LANを利用してインターネットやEメールを利用できます。→P420

■ステレオスピーカー

動画ファイルや音楽ファイルなどをステレオスピーカーにより迫力の音で再生できます。→P314、P319

■カメラ機能

2つのカメラ（背面：有効画素数約131万画素（記録画素数約122万画素）、正面：有効画素数約31万画素（記録画素数約30万画素））を搭載し、利用状況に応じて切り替えて静止画や動画を撮影できます。→P184

■大画面ディスプレイ

大型2.9インチのTFT液晶によりインターネットのブラウジングや撮影した動画などが迫力ある大画面で楽しめます。

■Bluetooth機能

Bluetooth対応機器とワイヤレス接続し、データ通信やハンズフリーで通話することなどができます。また、Bluetooth対応機器どうしで電話帳やファイルの交換などができます。→P502

■TransFlashメモリカード

超小型の着脱可能なTransFlashメモリカードを利用して、FOMA端末で撮影した画像や登録した電話帳などのデータを保存したり、パソコンなど他の機器からメモリカードに記録したデータをFOMA端末にコピーしたりできます。→P335

■マルチタスク機能

複数のアプリケーションや機能を同時に使用できます（一部で同時に使用できないアプリケーションや機能があります）。
→P44

■マルチアクセス機能

音声電話とパケット通信を同時に使うことができるマルチアクセス機能によって、インターネット接続中に音声電話を利用したり、音声電話の通話中にメールを送ったりすることなどができます。
→P356

■アプリケーション追加機能

アプリケーションをインストールすることで、FOMA端末をさらに便利に活用できます。→P408

■ドキュメントビューア機能

Eメールの添付ファイルやメモリカードなどから Word、Excel、PowerPoint、PDFなどのパソコン文書ファイルをFOMA端末に取り込んで表示できます。
→P324

■Eメールの自動受信機能

mopera U※メールサービスの利用、またはメール通知機能に対応したプロバイダとご契約いただくことで、Eメールを自動的に受信できます。→P273

※：mopera Uはお申し込みが必要な有料サービスです。

■電子辞書機能

電子辞書機能を搭載し、国語辞書で言葉の意味を調べたり、海外で英和／和英辞書を使って単語の意味を調べたりするときなどに便利です。→P401

■マルチメディアプレーヤー

さまざまなマルチメディア機能を搭載し、静止画ファイルの表示、動画ファイルや音楽ファイルの再生が可能です。
→P308、P314、P319

■データシンクロ機能

同梱されている USB 接続ケーブルやBluetooth経由で接続したパソコンと、デスクトップスイートを利用してFOMA端末に保存されている電話帳などのデータを簡単に同期させてバックアップをとることができます。FOMA端末に保存されているデータは、インターネット経由で接続したSyncMLサーバとSyncMLを利用して同期させることもできます。
→P587

■VPN（Virtual Private Network）機能

インターネット経由の仮想専用線（VPN）を利用して、本FOMA端末からイントラネット（企業内ネットワークなど）へセキュリティの確立された安全な接続を行うことができます。→P436

■手書き入力機能

日本語対応手書き入力ソフトウェアを搭載し、入力領域にスタイラスペンで書いた文字を認識して入力できます。文字入力予測機能と連携すると、漢字やひらがな、英数字などが混在した文章もスムーズに入力できます。→P541

豊富なネットワークサービス

■留守番電話サービス（有料）

●お申し込みが必要となります。→P170

■キャッチホン（有料）

●お申し込みが必要となります。→P173

■転送でんわサービス（無料）

●お申し込みが必要となります。→P175

■デュアルネットワークサービス（有料）

●お申し込みが必要となります。→P178

■ショートメッセージサービス（SMS）（無料）

●お申し込みは不要です。→P244

FOMA M1000を使いこなす！

■FOMA M1000のコミュニケーション機能

海外で利用する

W-CDMA、GSM/GPRS方式を採用している国に旅行をするときなどにお客様のFOMA端末を一緒に持っていけば、日本国内で使用している電話番号のままで電話の発着信やデータの送受信ができます。また、相手の端末がテレビ電話に対応していれば、テレビ電話で国際電話を利用できます。→P560

テレビ電話で相手の顔を見ながら通話する

通話の相手とお互いの顔を見ながら会話ができます。お客様のFOMA端末からは、正面カメラを使用して自分の映像や、背面カメラを使用して景色などの相手に見せたい映像を、目的に応じて2つのカメラを切り替えて送信できます。相手に映像を送信したくないときは、カメラをOFFにすることもできます。→P90

■FOMA M1000のアクセス機能

無線LAN経由で接続する

ワイヤレスでインターネットやイントラネット（企業内ネットワークなど）に接続でき、インターネットやEメールなどの利用が可能です。→P420

Bluetooth経由で接続する

Bluetooth対応パソコンなどとワイヤレスで接続してデータ通信が可能です。また、Bluetooth対応のハンズフリー機器やヘッドセットと接続すると、FOMA端末を持たずに通話をすることも可能です。→P502

■FOMA M1000のその他の便利な機能

ボイスレコーダーとして使う

会議の会話など、突然録音したい状況が発生した場合でも、1つのキーを押すだけですぐに録音を開始することができます。→P351

デジタルカメラ／デジタルビデオカメラとして使う

正面と背面の2つのカメラを状況に応じて切り替えて、静止画の撮影や動画の撮影ができます。背面カメラでは記録画素数約122万画素（有効画素数約131万画素）の高画質の静止画を撮影でき、最大4倍のデジタルズームも可能です。→P184

ドキュメントビューア機能でデータを確認する

外出中などに受信したEメールに添付されているWord、Excel、PowerPoint、PDFなどのパソコン文書ファイルをFOMA端末で表示して確認できます。→P324

静止画／動画／ミュージックプレーヤー機能

インターネットなどから本FOMA端末やTransFlashメモリカードに取り込んだ各種ファイルや、カメラで撮影した静止画や動画を表示・再生できます。また、各プレーヤーでファイルを表示・再生中に詳細情報の確認ができます。ファイル名の変更や削除など、ファイルの管理・編集が可能です。→P308、P314、P319

ゲームの操作に便利なキー配置

ナビゲーションキーと2つのキーを使って、携帯ゲーム専用機のようにゲームをプレイできます。→P31

動画メール機能

カメラで撮影した動画やインターネットから取り込んだ動画などをEメールに添付して送ることができます。→P267

PIM機能による多彩な情報管理

多彩なPIM機能（電話帳、スケジュール、ToDo）を搭載し、連絡先や個人の予定、ToDoリストをFOMA端末1台で管理できます。
→P102、P362、P378

安全上のご注意（必ずお守りください）

●ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。また、お読みになった後は、大切に保管してください。

●ここに示した注意事項は、お使いになる人や、他の人への危害、財産への損害を未然に防ぐための内容を記載していますので、必ずお守りください。

■次の表示の区分は、表示内容を守らず、誤った使用をした場合に生じる危害や損害の程度を説明しています。

⚠ 危険	この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
⚠ 警告	この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
⚠ 注意	この表示は、取り扱いを誤った場合、「傷害を負う可能性が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される」内容です。

■次の絵表示の区分は、お守りいただく内容を説明しています。

禁止	禁止（してはいけないこと）を示します。
分解禁止	分解してはいけないことを示す記号です。
水濡れ禁止	水がかかる場所で使用したり、水に濡らしたりしてはいけないことを示す記号です。
濡れ手禁止	濡れた手で扱ってはいけないことを示す記号です。

指示	指示に基づく行為に対する強制（必ず実行していただくこと）を示します。
電源プラグを抜く	電源プラグをコンセントから抜いていただくことを示す記号です。

■「安全上のご注意」は下記の8項目に分けて説明しています。

FOMA端末、電池パック、アダプタの取り扱いについて（共通）

危険

指示

FOMA端末に使用する電池パックおよびアダプタは、ドコモグループ各社が指定したものを使用してください。

●指定品以外のものを使用した場合は、FOMA端末および電池パックを漏液、発熱、破裂、発火、故障させる原因となります。
電池パック　M01　　ACアダプタ　M01　　卓上ホルダ　M01
FOMA ACアダプタ 01　　FOMA海外兼用ACアダプタ 01
FOMA DCアダプタ 01
※その他互換性のある商品については当社窓口までお問い合わせください。

警告

禁止

ガソリンスタンドなど、引火、爆発の恐れがある場所では、使用しないでください。

●プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵が発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因となります。

禁止

強い衝撃を与えたり、投げつけたりしないでください。

●電池パックの漏液、発熱、破裂、発火や機器の故障、火災の原因となります。

禁止

充電端子や外部接続端子に導電性異物（金属片、鉛筆の芯など）が触れないようにしてください。また、内部に入れないようにしてください。

●ショートによる火災や故障の原因となります。

指示

発煙、異臭などの異常が発生したり、破損したりした場合は、ただちに次の作業を行ってください。

1.電源プラグをコンセントやソケットから抜く

2. FOMA端末の電源を切る

3.電池パックをFOMA 端末から取り外す

●そのまま使用（充電）すると、発火などの事故の原因となります。電池パックを取り外したあと、当社窓口までご連絡ください。

禁止

電子レンジなどの加熱調理機器や高圧容器に、電池パック、FOMA端末、アダプタを入れないでください。

●電池パックを漏液、発熱、破裂、発火させたり、FOMA端末、アダプタの発熱、発煙、発火や回路部品を破壊させる原因となります。

水濡れ禁止

濡らさないでください。

●水やペットの尿などの液体が入ると発熱、感電、火災、故障などの原因となります。使用場所、取り扱いにご注意ください。

注意

指示

乳幼児の手の届かない場所に保管してください。

●誤って飲み込んだり、けがなどの原因となります。

指示

子供が使用する場合は、保護者が取り扱いの内容を教えてください。また、使用中においても、指示どおりに使用しているかをご注意ください。

●けがなどの原因となります。

禁止

直射日光の強い場所や炎天下の車内などの高温の場所で使用、放置しないでください。

●電池パックを漏液、発熱、破裂、発火させたり、機器の変形、故障の原因となります。また、ケースの一部が熱くなり、やけどの原因となることがあります。

禁止

湿気やほこりの多い場所や高温になる場所には、保管しないでください。

●故障の原因となります。

禁止

ぐらついた台の上や傾いた場所など、不安定な場所には置かないでください。

●落下して、けがや故障の原因となります。

指示

充電、または動画撮影や再生、テレビ電話の繰り返しや長時間連続使用などの場合においてFOMA端末や電池パック・アダプタの温度が高くなることがあります。

●温度の高い部分に直接長時間触れるとお客様の体質や体調によっては肌に赤みやかゆみ、かぶれなどが生じる恐れがあります。
FOMA端末をアダプタに接続した状態で長時間連続使用される場合には特にご注意ください。

FOMA端末の取り扱いについて

警告

指示

航空機内や病院など、使用を禁止された区域では、FOMA端末の電源を切ってください。

●電子機器や医用電気機器に影響を与える場合があります。自動的に電源が入る機能を設定している場合は、設定を解除してから電源を切ってください。
医療機関内における使用については各医療機関の指示に従ってください。
また、航空機内での使用など禁止行為をした場合は法令により罰せられることがあります。

指示

高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは、FOMA端末の電源を切ってください。

●電子機器が誤動作するなどの影響を与える場合があります。

※ご注意いただきたい電子機器の例
補聴器、植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器、その他医用電気機器、火災報知器、自動ドア、その他の自動制御機器など。
植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器、その他の医用電気機器をご使用される方は、当該の各医用電気機器メーカもしくは販売業者に電波による影響についてご確認ください。

警告

禁止

医用電気機器などを装着している場合は、胸ポケットや内ポケットなどへの装着はおやめください。

●FOMA 端末を医用電気機器などの近くで使用すると、医用電気機器などの故障の原因となる恐れがあります。

禁止

火のそばやストーブのそばなど、高温の場所での使用、放置はしないでください。

●発熱、発火などの事故または故障の原因となります。

分解禁止

分解、改造をしないでください。

●火災、けが、感電などの事故または故障の原因となります。

指示

スピーカーホン機能を動作させて通話する際は、必ずFOMA端末を耳から離してください。

●難聴になる可能性があります。

指示

心臓の弱い方は、着信バイブレータ（振動）や着信音量の設定に注意してください。

●心臓に影響を与える可能性があります。

禁止

自動車などを運転中に使用しないでください。

●安全走行を損ない、事故の原因となります。車を安全なところに停車させてからご使用になるか、ドライブモードをご利用ください。道路交通法の改正により、2004年11月1日から運転中の携帯電話の使用は、罰則の対象となります。

禁止

エアバッグの近くのダッシュボードなど、エアバッグの展開による影響が予想される場所にFOMA端末を置かないでください。

●エアバッグが展開した場合、FOMA端末が本人や他の人などに当たり、けがなどの事故や故障および破損の原因となります。

注意

指示

屋外で使用中に、雷が鳴りだしたら、すぐに電源を切って安全な場所に移動してください。

●落雷、感電の原因となります。

禁止

ストラップなどを持ってFOMA端末を振り回さないでください。

●本人や他の人などに当たり、けがなどの事故や故障および破損の原因となります。

お客様の体質や体調によっては、かゆみ、かぶれ、湿疹などが生じることがあります。異状が生じた場合は、直ちに使用をやめ、医師の診療を受けてください。

●下記の箇所に金属を使用しています。

材　料	使用箇所
クロムメッキ	リアカバーロック、カメラ／シャッターキー、音量／ズームキー、スピーカーホン／ボイスレコードキー、電源／ロックスイッチ、ナビゲーションキー
ニッケル	リアカバーのロゴ部、受話口のロゴ部
スズメッキ	スピーカーの装飾部
アルミニウムメッキ	受話口の装飾部
はがね	電池パックの取り付け部、FOMAカードトレイのフタ、TransFlashメモリカードのフタ、スタイラスペンのボディー部
リン青銅（表面：金メッキ）	電池パックの端子部
ベリリウム銅（表面：金メッキ）	卓上ホルダ用充電端子

FOMA端末内のFOMAカードトレイやTransFlashメモリカードトレイに水などの液体や金属片、燃えやすいものなどの異物を入れないでください。

●火災、感電、故障の原因となります。

磁気カードなどをFOMA端末に近づけないでください。

●キャッシュカード、クレジットカード、テレホンカード、フロッピーディスクなどの磁気データが消えてしまうことがあります。

自動車内で使用した場合、車種によっては、まれに車載電子機器に影響を与えることがあります。

●安全走行を損なう恐れがありますので、その場合は使用しないでください。

TransFlashメモリカードを取り付け、取り外す際にご注意ください。

●手や指を傷つける可能性があります。

万が一、ディスプレイ部やカメラのレンズを破損した場合は、割れたガラスなどにご注意ください。

●ディスプレイ部やカメラのレンズの表面には、プラスチックパネルを使用しガラスが飛び散りにくい構造となっておりますが、誤って割れた切断面などに触れますと、けがの原因となります。

電池パックの取り扱いについて

■電池パックのラベルに記載されている表示により、電池の種類をご確認ください。

表　示	電池の種類
リチウムイオン	リチウムイオン電池

危険

電池パック内部の液が目のなかに入ったときは、こすらず、すぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の診療を受けてください。

●失明の原因となります。

火の中に投下しないでください。

●電池パックを漏液、発熱、破裂、発火させる原因となります。

端子に針金などの金属類を接触させないでください。また、金属製ネックレスなどと一緒に持ち運んだり、保管しないでください。

●電池パックを漏液、発熱、破裂、発火させる原因となります。

釘を刺したり、ハンマーで叩いたり、踏みつけたりしないでください。

●電池パックを漏液、発熱、破裂、発火させる原因となります。

電池パックをFOMA端末に接続するときに、うまく接続できない場合は、無理に接続しないでください。
また、電池パックの向きを確かめてから接続してください。

●電池パックを漏液、発熱、破裂、発火させる原因となります。

火のそばやストーブのそばなど、高温の場所での使用、放置はしないでください。

●電池パックを漏液、発熱、破裂、発火させる原因となります。

分解、改造をしないでください。また、直接はんだ付けしないでください。

●電池パックを漏液、発熱、破裂、発火させる原因となります。

警告

電池パック内部の液が皮膚や衣服に付着した場合は、直ちに使用をやめてきれいな水で洗い流してください。

●皮膚に傷害をおこす原因となります。

所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電をやめてください。

●電池パックを漏液、発熱、破裂、発火させる原因となります。

警告

禁止

電池パックの使用中、充電中、保管時に、異臭、発熱、変色、変形など、いままでと異なるときは、FOMA端末から取り外し、使用しないでください。

●そのまま使用すると電池パックを漏液、発熱、破裂、発火させる原因となります。

指示

電池パックが漏液したり、異臭がするときは、直ちに使用をやめて火気から遠ざけてください。

●漏液した液体に引火し、発火、破裂の原因となります。

禁止

直射日光の強い場所や炎天下の車内などの高温の場所で使用、放置しないでください。

●漏液、発熱、性能、寿命を低下させる原因となります。

注意

禁止

一般のゴミと一緒に捨てないでください。

●発火、環境破壊の原因となることがあります。不要となった電池パックは、端子にテープなどを貼り、絶縁してから当社窓口にお持ちいただくか、回収を行っている市町村の指示に従ってください。

スタイラスペンの取り扱いについて

警告

指示

乳幼児の手の届かない場所に保管してください。

●誤って飲み込んだり、けがなどの原因となります。

禁止

スタイラスペンは人に向けないでください。

●本人や他の人などに突起が当たり、けがや失明の原因となります。

禁止

スタイラスペンは他の機器で使用しないでください。

●機器の故障、破損の原因となります。

指示

FOMA端末に使用するスタイラスペンは、ドコモグループ各社が指定したものを使用してください。

●指定品以外のものを使用した場合、ディスプレイを破損、汚濁させる原因となります。
スタイラスペン　M01

指示

スタイラスペンを取り外し／収納する際にご注意ください。

●手や指を傷つける場合があります。

アダプタの取り扱いについて

⚠警告

コンセントやシガーライタソケットにつながれた状態で充電端子をショートさせないでください。また、充電端子に手や指など、身体の一部を触れさせないでください。

●火災、故障、感電、傷害の原因となります。

ACアダプタや卓上ホルダは、風呂場などの湿気の多い場所では、絶対に使用しないでください。

●感電の原因となります。

濡れた手でアダプタのコード、コンセントに触れないでください。

●感電の原因となります。

雷が鳴り出したら、FOMA端末、アダプタには触れないでください。

●落雷、感電の原因となります。

ACアダプタをコンセントに差し込む時は、金属製ストラップなどの金属類を触れさせないように注意し、確実に差し込んでください。

●感電、ショート、火災の原因となります。

長時間使用しない場合は、プラグをコンセントから抜いてください。

●感電、火災、故障の原因となります。

アダプタのコードや電源コードが傷んだら使用しないでください。

●感電、発熱、火災の原因となります。

万が一、水などの液体が入った場合は、直ちにコンセントからプラグを抜いてください。

●感電、発煙、火災の原因となります。

分解、改造をしないでください。

●感電、火災、故障の原因となります。

DCアダプタはマイナスアース車専用です。プラスアース車には絶対に使用しないでください。

●火災の原因となります。

指定の電源、電圧で使用してください。

●誤った電圧で使用すると火災や故障の原因となります。
ACアダプタ M01、FOMA海外兼用ACアダプタ 01
：AC100V-240V（家庭用交流コンセントのみに接続すること）
ACアダプタ
：AC100V（国内の家庭用交流100Vコンセントのみに接続すること）
DCアダプタ
：DC12V・24V（マイナスアース車専用）

プラグについたほこりは、拭き取ってください。

●火災の原因となります。

警告

禁止

充電中は、卓上ホルダを安定した場所においてください。卓上ホルダを布や布団でおおったり、包んだりしないでください。

●FOMA 端末が外れたり、熱がこもり、火災、故障の原因となります。

指示

DCアダプタのヒューズが万が一切れた場合は、必ず指定のヒューズを使用してください。

●誤ったヒューズを使用すると、火災、故障の原因となります。指定ヒューズに関しては、個別の取扱説明書でご確認ください。

注意

電源プラグを抜く

お手入れの際は、コンセントから抜いて、行ってください。

●感電の原因となります。

禁止

アダプタのコードや電源コードの上に重いものをのせたりしないでください。

●感電、火災の原因となります。

指示

アダプタをコンセントから抜く場合は、アダプタコードや電源コードを引っ張らず、プラグを持って抜いてください。

●コードを引っ張るとコードが傷つき、感電、火災の原因となります。

禁止

濡れた電池パックを充電しないでください。

●電池パックを発熱、発火、破裂させる原因となります。

FOMAカードの取り扱いについて

警告

禁止

電子レンジなどの加熱調理器や高圧容器にFOMAカードを入れないでください。

●溶損、発熱、発煙、データの消失、故障の原因となります。

注意

指示

FOMAカードは、乳幼児の手の届かない場所に保管してください。

●誤って飲み込んだり、けがなどの原因となります。

指示

FOMAカード（IC部分）を取り外す際にご注意ください。

●手や指を傷つける可能性があります。

⚠ 注意

禁止

FOMAカードを火の中に入れたり、加熱したりしないでください。

●溶損、発熱、発煙、データの消失、故障の原因となります。

禁止

FOMAカードを火のそば、ストーブのそばなど、高温の場所で使用、放置しないでください。

●溶損、発熱、発煙、データの消失、故障の原因となります。

禁止

ICを傷つけないでください。

●故障の原因となります。

禁止

ICを不用意に触れたり、ショートさせたりしないでください。

●データの消失、故障の原因となります。

禁止

FOMAカードを落としたり、衝撃を与えたりしないでください。

●故障の原因となります。

禁止

FOMAカードを曲げたり、重いものを載せたりしないでください。

●故障の原因となります。

水濡れ禁止

FOMAカードを濡らさないでください。

●水やペットの尿などの液体が付着すると故障の原因となります。

分解禁止

FOMAカードを分解、改造しないでください。

●データの消失、故障の原因となります。

禁止

FOMAカード保管の際には、直射日光が当たる場所や高温多湿な場所には置かないでください。

●故障の原因となります。

禁止

FOMAカードはほこりの多い場所には保管しないでください。

●故障の原因となります。

指示

FOMAカードを使用する機器は、当社が指定したものを使用してください。

●指定品以外のものを使用した場合は、データの消失や故障の原因となります。指定品については、当社窓口までお問い合わせください。

TransFlashメモリカード／TransFlashメモリカードアダプタの取り扱いについて

警告

禁止

電子レンジなどの加熱調理器や高圧容器に入れないでください。

●溶損、発熱、発煙、データの消失、故障の原因となります。

禁止

乳幼児の手の届く場所に置かないでください。

●誤って飲み込む可能性があります。

※万が一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。

注意

分解禁止

分解、改造をしないでください。

●データの消失、故障の原因となります。

禁止

曲げたり、重いものを載せたりしないでください。

●故障の原因となります。

禁止

落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。

●故障の原因となります。

禁止

金属端子部分を手や金属で不用意に触れたり、ショートさせたりしないでください。

●データの消失、故障の原因となります。

水濡れ禁止

濡らさないでください。

●水やペットの尿などの液体が付着すると故障の原因となります。

禁止

金属端子部分を傷つけないでください。

●故障の原因となります。

禁止

火の中に入れたり、加熱したりしないでください。

●溶損、発熱、発煙、データの消失、故障の原因となります。

禁止

火のそばやストーブのそばなど、高温の場所での使用、放置はしないでください。

●溶損、発熱、発煙、データの消失、故障の原因となります。

指示

子供が使用する場合は、保護者が取り扱いの内容を教えてください。また、使用中においても、指示どおりに使用しているかをご注意ください。

●けがなどの原因となります。

禁止

使用や保存は、以下のような場所は避けてください。

・高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所
・直射日光の当たる場所
・湿気の多い場所
・腐食性のガスなどが発生する場所
・ほこりの多い場所

●故障の原因となります。

医用電気機器近くでの取り扱いについて

■本記載の内容は「医用電気機器への電波の影響を防止するための携帯電話端末などの使用に関する指針」（電波環境協議会［旧不要電波問題対策協議会］）に準ずる。

 警告

指示

満員電車の中など混雑した場所では、付近に植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器を装着している方がいる可能性がありますので、FOMA端末の電源を切るようにしてください。

●電波により植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。

指示

医療機関の屋内では次のことを守って使用してください。

●手術室、集中治療室(ICU)、冠状動脈疾患監視病室(CCU)にはFOMA端末を持ち込まないでください。

●病棟内では、FOMA 端末の電源を切ってください。

●ロビーなどであっても付近に医用電気機器がある場合は、FOMA端末の電源を切ってください。

●医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従ってください。

●自動的に電源が入る機能が設定されている場合は、設定を解除してから、電源を切ってください。

指示

植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器を装着されている場合は、装着部からFOMA端末は22cm以上離して携行および使用してください。

●電波により植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。

指示

自宅療養など医療機関の外で、植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器以外の医用電気機器を使用される場合には、電波による影響について個別に医用電気機器メーカなどにご確認ください。

●電波により医用電気機器の動作に影響を与える場合があります。

取り扱い上の注意について

共通のお願い

■水をかけないでください。

- FOMA 端末、電池パック、アダプタは防水仕様にはなっておりません。風呂場など、湿気の多い場所でのご使用や、雨などがかかることはおやめください。また身につけている場合、汗による湿気により内部が腐食し故障の原因となります。調査の結果、これらの水濡れによる故障と判明した場合、保証対象外となり修理できない場合がありますので、あらかじめご了承願います。なお、保証の対象外ですので修理を実施できる場合でも有償修理となります。
- FOMA 端末が濡れたり湿気を帯びたりしてしまった場合は、すぐに電源を切って電池パックを外し、お早めに故障取扱窓口へご来店ください。ただし、FOMA端末の状態によって修理できないことがあります。

■お手入れは乾いた柔らかい布で行ってください。

- FOMA 端末のディスプレイは、カラー液晶画面を見やすくするため、特殊コーティングを施してある場合があります。お手入れの際に、乾いた布などで強く擦ると、ディスプレイに傷がつく場合があります。お取り扱いには十分ご注意いただき、お手入れは乾いた柔らかい布(めがね拭きなど)で行ってください。また、ディスプレイに水滴や汚れなどが付着したまま放置すると、染みになったり、コーティングがはがれることがあります。
- アルコール、シンナー、ベンジン、洗剤などで拭くと、印刷が消えたり、色があせたりすることがあります。

■端子は時々乾いた綿棒で清掃してください。

- 端子が汚れていると接触が悪くなり、電源が切れることがあります。また、充電不十分の原因となりますので、汚れたときは、端子を乾いた布、綿棒などで拭いてください。

■エアコンの吹き出し口の近くに置かないでください。

- 急激な湿度の変化により結露し、内部が腐食し故障の原因となります。

■FOMA端末に無理な力がかかるような場所に置かないでください。

- 多くの物がつまった荷物の中に入れたり、衣類のポケットに入れて座ると、液晶画面、内部基板などの破損、故障の原因となり、保証の対象外となります。

■電池パックやアダプタの取り扱いについては、この取扱説明書のP53およびP56の記載をよくお読みください。

FOMA端末についてのお願い

■極端な高温、低温は避けてください。

- 温度は5℃～35℃、湿度は45%～85%の範囲でお使いください。

■一般の電話機やテレビ・ラジオなどをお使いになっている近くで使用すると、影響を与える場合がありますので、なるべく離れた場所でご使用ください。

■お客様ご自身でFOMA端末に登録された情報内容は、別にメモを取るなどして保管してくださるようお願いします。

- 万が一、登録された情報内容が消失してしまうことがあっても、当社としては責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

■FOMA端末を異物のある机上などに置かないでください。

- 背面カメラ、ディスプレイが破損する原因となります。

■ズボンやスカートの後ろポケットにFOMA端末を入れたまま、椅子などに座らないでください。また、鞄の底など無理な力がかかるような場所には入れないでください。

- 故障の原因となります。

■使用中、充電中、FOMA 端末が温かくなることがありますが、異常ではありませんのでそのままご使用ください。

■通常はイヤホンマイク端子キャップ、外部接続端子キャップのカバーをはめた状態でご使用ください。

■電源を入れたままかばんに入れて持ち歩くときなどは、サイドキーやタッチスクリーンが押されても動作しないように、パスワードロックを設定することをおすすめします。

■カメラを直射日光に向けて放置しないでください。

- 素子の退色・焼付きを起こす場合があります。

電池パックについてのお願い

■電池パックは消耗品です。

- 十分に充電しても使用状態などによって異なりますが、使用時間が極端に短くなったときは電池パックの交換時期です。指定の新しい電池パックをお買い求めください。

■充電は、適正な周囲温度（5℃～35℃）の場所で行ってください。

■はじめてお使いのときや、長時間ご使用にならなかったときは、ご使用前に必ず充電してください。

■電池パックの使用時間は、使用環境や電池パックの劣化度により異なります。

■不要になった電池パックは一般のゴミと一緒に捨てないでください。

- 不要になった電池パックは、端子にテープなどを貼り、絶縁してから当社窓口へお持ちいただくか、回収を行っている市町村の指示に従ってください。

■直射日光が当たらず、風通しの良い涼しい場所に保管してください。

- 長時間使用しないときは、使い切った状態でFOMA端末またはアダプタから外して保管してください。

アダプタについてのお願い

■充電は、適正な周囲温度（5℃～35℃）の場所で行ってください。

■次のような場所では、充電しないでください。

- 湿気、ほこり、振動の多い場所
- 一般の電話機やテレビ、ラジオなどの近く

■充電中、アダプタが温かくなることがありますが、異常ではありませんのでそのままご使用ください。

■DCアダプタを使用して充電する場合は、車のエンジンを切ったまま使用しないでください。

- 車のバッテリーを消耗させる原因となります。

■抜け防止機構のあるコンセントを使用の場合、そのコンセントの取扱説明書に従ってください。

■強い衝撃を与えないでください。また、充電端子を変形させないでください。

- 故障の原因となります。

FOMAカードについてのお願い

■FOMAカードの取り外しには、必要以上に力を入れないようにしてください。

■ご使用になる端末への挿入には必要以上の負荷をかけないようにしてください。

■使用中、FOMA カードが温かくなることがありますが、異常ではありませんのでそのままご使用ください。

■他のICカードリーダーライターなどにFOMAカードを挿入して使用した結果として故障した場合は、お客様の責任となりますので、ご注意ください。

■IC部分はいつもきれいな状態でご使用ください。

■お手入れは、乾いた柔らかい布などで拭いてください。

■お客様ご自身でFOMAカードに登録された情報内容は、別にメモを取るなどして保管してくださるようお願いします。

- 万が一、登録された情報内容が消失してしまうことがあっても、当社としては責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

■環境保全のため、不要になったFOMAカードは当社窓口にお持ちください。

■極端な高温、低温は避けてください。

外部メモリについてのお願い

■IC部分の取り外しには、必要以上に力を入れないようにしてください。

■ご使用になる端末への取り付けには必要以上の負荷をかけないようにしてください。

ディスプレイ（タッチスクリーン）についてのお願い

■ディスプレイに保護シートやシールを貼らないでください。

- 機能劣化やディスプレイが破損する原因となります。

■表面を固いものでこすったり、強く押しつけたりしないでください。

- ディスプレイが破損する原因となります。

■ディスプレイをタッチパネルとして操作する際は、必ず付属のスタイラスペンをお使いください。

- 爪やペン、ピンなど先の尖ったもので操作すると、ディスプレイが破損する原因となります。

スタイラスペンについてのお願い

■スタイラスペンは消耗品です。

- 紛失または破損した際は、指定のスタイラスペンをご用意ください。詳しくは、当社営業窓口などへお問い合わせください。

■スタイラスペンでディスプレイを触れた際、滑りが悪くなったり、ディスプレイの反応が鈍かったりした場合には、乾いた柔らかい布（めがね拭きなど）でディスプレイの表面を拭いてください。→P20

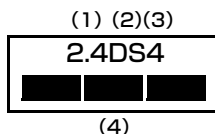
無線LANについてのお願い

■無線LANについて

電気製品・AV・OA機器などの磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところで使用しないでください。

- 磁気や電気雑音の影響を受けると雑音が大きくなったり、通信ができなくなることがあります（特に電子レンジ使用時には影響を受けることがあります）。
- テレビ、ラジオなどに近いと受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れることがあります。
- 近くに複数の無線LANアクセスポイントが存在し、同じチャンネルを使用していると、正しい検索ができない場合があります。

■周波数帯について

WLAN搭載機器が使用する周波数帯は、端末本体の電池パック挿入部に記載されています。ラベルの見かたは次のとおりです。

（1）2.4　：2400MHz帯を使用する無線設備を表します。
（2）DS　：変調方式がDS-SS方式であることを示します。
（3）4　：想定される与干渉距離が40m以下であることを示します。
（4）■■■　：2400MHz～2483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味します。

2.4GHz機器使用上の注意事項

WLAN搭載機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）ならびにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局ならびにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するかまたは電波の発射を停止した上、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための処置など（例えば、パーティションの設置など）についてご相談ください。
3. そのほか、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。

お問い合わせ先：0120-800-000　※ドコモの携帯電話、PHSからもご利用になれます。

Bluetoothについてのお願い

Bluetoothとは携帯電話やパソコンなどのBluetooth対応機器どうしをワイヤレス接続する技術です。→P502

■パスキー

Bluetooth機器を他人に許可なく使われないためのパスワードです。半角英数字で16桁まで設定できますが、機器によってはあらかじめ設定され、変更できない場合があります。ワイヤレス接続するBluetooth機器とFOMA端末の両方に同じパスキーを入力する場合と、FOMA端末だけにパスキーを入力する場合があります。
安全のため、パスキーを設定する場合は16桁までのできるだけ長い桁数でのご使用をおすすめします。また、名前や誕生日など容易に推測できる言葉をパスキーに使わないようご注意ください。

■良好な接続を行うために、次の点にご注意ください。

- 他のBluetooth機器とは、見通し距離約10m以内で接続してください。周囲の環境（壁、家具など）、建物の構造によっては接続可能距離が短くなります。FOMA端末と他のBluetooth機器の間に障害物がある場合も、接続可能距離は短くなります。
  特に、鉄筋コンクリートの建物では、上下の階や左右の部屋など鉄筋の入った壁をはさんで設置した場合、接続できないことがあります。上記接続距離を保証するものではありませんので、ご了承ください。
- 他の機器（電気製品／AV機器／OA機器／デジタルコードレス電話機／ファックスなど）から2m以上離れて接続してください（特に電子レンジ使用時は影響を受けやすいため、必ず3m以上離れてください）。近づいていると、他の機器の電源が入っているときには、正常に接続できなかったり、テレビやラジオの雑音や受信障害の原因になったりすることがあります（UHFや衛星放送の特定のチャンネルではテレビ画面が乱れることがあります）。
- 放送局や無線機などが近く、正常に接続できないときは、接続相手のBluetooth機器の場所を変更してください。周囲の電波が強すぎるときは、正常に接続できないことがあります。

■無線LANとの電波干渉について

Bluetooth機器と無線LAN（IEEE802.11b/g）は同一周波数帯（2.4GHz）を使用するため、無線LANを搭載した機器の近辺で使用すると、電波干渉が発生し、通信速度の低下、雑音や接続不能の原因になる場合があります。この場合、次の対策を行ってください。

- 無線LANと、FOMA端末やワイヤレス接続するBluetooth機器は、10m以上離してください。
- 10m以内で使用する場合は、無線LANまたはFOMA端末とワイヤレス接続するBluetooth機器の電源を切ってください。

■FOMA端末は、Bluetoothを使用した通信時のセキュリティとして、Bluetooth標準規格に準拠したセキュリティ機能に対応しておりますが、設定内容などによってセキュリティが十分でない場合があります。Bluetoothを使用した通信を行う際にはご注意ください。

■Bluetooth を使用した通信時にデータや情報の漏洩が発生しましても、当社としては責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

■FOMA端末では、以下のバージョンとプロファイルに対応したサービスを利用できます。

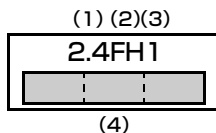
対応Bluetoothバージョン	Bluetooth標準規格Ver.1.1に準拠※1
出力	Bluetooth標準規格Power Class2
見通し通信距離※2	約10m以内
対応Bluetoothプロファイル※3	Generic Access Profile（ジェネリックアクセスプロファイル） Generic Object Exchange Profile（ジェネリックオブジェクトエクスチェンジプロファイル） Object Push Profile（オブジェクトプッシュプロファイル） Serial Port Profile（シリアルポートプロファイル） Dial-Up Networking Profile（ダイヤルアップネットワーキングプロファイル） Headset Profile（ヘッドセットプロファイル） Service Discovery Application Profile（サービスディスカバリアプリケーションプロファイル） Hands-free Profile（ハンズフリープロファイル）

※1：FOMA端末を含むすべてのBluetooth機能搭載機器は、Bluetooth SIGが定めている方法でBluetooth標準規格に適合していることを確認しており、認証を取得しています。ただし、接続する機器の特性や仕様によっては、操作方法が異なったり、接続してもデータのやり取りができない場合があります。

※2：通信機器間の障害物や、電波状況により変化します。

※3：Bluetooth対応機器どうしの使用目的に応じた仕様で、Bluetoothの標準規格です。

■周波数帯について

FOMA端末が使用する周波数帯は、端末本体の電池パック挿入部に記載されています。ラベルの見かたは次のとおりです。

（1）2.4　：2400MHz帯を使用する無線設備を表します。

（2）FH　：変調方式がFH-SS方式であることを示します。

（3）1　：想定される与干渉距離が10m以下であることを示します。

（4）　：2400MHz～2483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可であることを意味します。

Bluetooth機器使用上の注意事項

本製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局など（以下「他の無線局」と略します）が運用されています。

1.本製品を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。

2.万一、本商品と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、電波の発射を停止して電波干渉を避けてください。

3.その他、不明な点やお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。

お問い合わせ先：0120-800-000　※ ドコモの携帯電話、PHSからもご利用になれます。

カメラについてのお願い

お客様がFOMA端末を利用して公衆に著しく迷惑をかける不良行為などを行う場合、法律、条例（迷惑防止条例など）に従い処罰されることがあります。

カメラ付き携帯電話を利用して撮影や画像送信を行う際は、プライバシーなどにご配慮ください。

その他のお願い

NTT ドコモでは、NTT ドコモ以外の第三者が提供する機器、ネットワーク、ソフトウェアなどとの組み合わせによりお客様がFOMA端末の各種機能をご利用いただけない場合には責任を負いかねます。

知的財産権について

著作権・肖像権について

お客様が本製品を利用して撮影またはインターネット上のホームページからのダウンロードなどにより取得した文章、画像、音楽、ソフトウェアなど第三者が著作権を有するコンテンツは、私的使用目的の複製や引用など著作権法上認められた場合を除き、著作権者に無断で複製、改変、公衆送信などすることはできません。実演や興行、展示物などには、私的使用目的であっても撮影または録音を制限している場合がありますのでご注意ください。

また、お客様が本製品を利用して本人の同意なしに他人の肖像を撮影したり、撮影した他人の肖像を本人の同意なしにインターネット上のホームページに掲載するなどして不特定多数に公開することは、肖像権を侵害する恐れがありますのでお控えください。

商標について

- 「FOMA／フォーマ」「mova／ムーバ」「Freedom Of Mobile multimedia Access」「iモード」「mopera／モペラ」「mopera U／モペラ ユー」「WORLD CALL／ワールドコール」「ドライブモード」「クイックキャスト」「マルチアクセス」「デュアルネットワーク」「Mzone／エムゾーン」「セキュリティスキャン」および「FOMA」「i-mode」「mopera U」ロゴはNTTドコモの商標または登録商標です。
- JavaおよびすべてのJava関連の商標およびロゴは、米国およびその他の国における米国Sun Microsystems,Inc. の商標または登録商標です。
- 「キャッチホン」は、日本電信電話株式会社の登録商標です。
- MOTOROLAおよび“Mロゴ”は米国特許商標庁に登録された商標です。(C) Motorola, Inc. 2005.
- The Bluetooth word mark and logos are owned by the Bluetooth SIG, inc. and any use of such marks by NTT DoCoMo, Inc. is under license. Other trademarks and trade names are those of their respective owners. （Bluetoothとそのロゴマークは、Bluetooth SIG, INC の商標で、株式会社NTTドコモはライセンスを受けて使用しています。その他の商標および名称はそれぞれの所有者に帰属します。）
- McAfee®, マカフィー®は米国法人McAfee, Inc.またはその関係会社の登録商標です。
- Quick Timeは、米国Apple Computer, Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。
- TransFlash™はSanDisk Corporationの登録商標です。
- Microsoft、MS、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Windows XPは、Microsoft® Windows® XP Professional operating systemまたはMicrosoft® Windows® XP Home Edition operating systemの略です。
- Windows 2000は、Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system の略です。
- Windows Meは、Microsoft® Windows® Millennium Edition operating systemの略です。
- Windows 98は、Microsoft® Windows® 98 operating systemの略です。
- Windows 98SEは、Microsoft® Windows® 98 operating system SECOND　EDITION の略です。
- Windows XP、2000、Me、98SE、98のように併記する場合があります。
- Windows 98とWindows 98SEをまとめてWindows 98と表記しています。
- その他本文中に記載されている会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

その他

- 本製品のソフトウェアの一部に、Independent JPEG Groupが開発したモジュールが含まれています。
- 本製品は、MPEG-4 Visual Patent Portfolio Licenseに基づきライセンスされており、お客様が個人的かつ非営利目的において以下に記載する場合においてのみ使用することが認められています。
  - MPEG-4 Visualの規格に準拠する動画(以下、MPEG-4 Video)を記録する場合
  - 個人的かつ非営利的活動に従事する消費者によって記録されたMPEG-4 Videoを再生する場合
  - MPEG-LAよりライセンスをうけた提供者により提供されたMPEG-4 Videoを再生する場合

  プロモーション、社内用、営利目的などその他の用途に使用する場合には、米国法人MPEG LA,LLCにお問い合わせください。
- 下記一件または複数の米国特許またはそれに対応する他国の特許権に基づき、QUALCOMM社よりライセンスされています。

  Licensed by QUALCOMM Incorporated under one or more of the following United States Patents and/or their counterparts in other nations;

  4,901,307　5,600,754　5,267,261　5,506,865　5,710,784　5,504,773　5,416,797
  5,568,483　5,228,054　5,778,338　5,109,390　5,490,165　5,414,796　5,544,196
  5,535,239　5,101,501　5,659,569　5,337,338　5,267,262　5,511,073　5,056,109
  5,657,420

本製品および付属品の輸出管理について

本製品および付属品は、米国輸出管理規則（Export Administration Regulations EAR）の適用を受けております。本製品および付属品について、それら法令を遵守くださいますようお願い申し上げます。本製品および付属品の輸出禁止国への持ち出し、輸出禁止国の国籍をもつ個人や輸出禁止国に本社を置く法人への販売、譲渡などにおいては、お客様の責任にて必要な許可の取得などを実施いただかなければなりません。詳しくは、米国商務省へお問い合わせください。

本体付属品について

■本体付属品

その他オプション品について→P585